



■東京都北区田端にある日本初のユニバーサルシアター CINEMA CHUPKI TABATA

★チュプキ・クラファン応援企画★ オンライントークイベント

「音響デザインと音声ガイドで進化する、ユニバーサルなアニメ映画の楽しみ方」

2022/08/13 にライブ配信

シネマ・チュプキ・タバタの公式 Youtube <https://chupki.jpn.org/>

TIME	話者	内 容
00:00	平塚	編集作業をします。
	岩浪	了解です
	平塚	はい。
	和田	やばいな、それ。この話にどれだけ人かかっているの。
	全員	ははは
	平塚	今の和田さんのやばいになってというのが UD トークに行っちゃったかもしれない。
	岩浪	ふふふ
	和田	やばいからいいんじゃないですか？
	平塚	あ、始まったかな。あ、これもう始まっているのかな。
	岩浪	始まってますよ。
	平塚	あ、はい。
00:34	平塚	あ、時間どおりですね。はい、こんばんは。
		みなさんこんばんは
	岩浪	こんばんは
	伊藤	こんばんは
	平塚	シネマ・チュプキ・タバタの平塚です。
		今日は、チュプキクラファン応援企画ということで豪華なゲストお三方をお招きして「音響デザインと音声ガイドで進化する、ユニバーサルなアニメ映画の楽しみ方」について、ライブ配信でお楽しみいただきたいと思います。

平塚 では、ゲストのみなさん、それぞれですね。ご発声いただきたいんですが、最近の近況と簡単なごあいさつということで、お一人ずつお願い出来ますでしょうか。

では、岩浪さんからお願いいたします。

岩浪 はい、えーとシネマチュプキさんではですね、あの、機材の方のプロデュースというか、創設時にやらせて頂きまして、えー、それ以来、平塚さんの頼みは断れない体になってしまいました。

音響監督の岩浪と申します。今、チュプキが大変困っておりますので、なんとか皆様のね、お力をお借りしたいということで、えー、今回も平塚さんにかりだされました。

よろしくお願いします。

平塚 ふふふふ

和田 ふふふふ

平塚 よろしく願い致します。

岩浪さん、今、そちら、ご自宅なんですか？

岩浪 そうですね。あの、オフィスです

伊藤 はははは。

平塚 素敵な日本庭園じゃない…さすがに緑が

岩浪 いや、ただの草っぱらですけど。ははは。

平塚 ふふふ、はい、じゃあステキなご自宅からよろしくお願い致します。

02:10 岩浪 お願いします。

平塚 はい、ではアニメーション監督の伊藤さん。よろしくお願い致します。

伊藤 どうも、伊藤です。よろしくお願いします。

僕は、チュプキさんとかかわりはオーディナルスケールの時に舞台挨拶をやらせてもらったということがありまして、その時に遊びに行かせてもらったという感じがあります。

もはや、ソードアートからは身をひいてしまったので、ややこ、出ていいものかという葛藤はありましたけど、まあちょっと何をしゃべるかわかりませんが、今日はよろしくお願い致します。

平塚 よろしく願い致します。

伊藤 近況はそんなに忙しくないです。暇です、という。

平塚 よろしく願い致します。伊藤さんも今、ご自宅からですかね。

伊藤 そうですね。カーテンしか吊っておりません。

03:19 平塚 ふふ、よろしくお願いいたします。

平塚 では、元チュプキ支配人で、現、シネマ…あ、間違えた

和田 間違えないでよ。

平塚 シマネシネマって言いにくいよね。

和田 うん、みんなね、シネマシネマ小野沢だったりね。

もうしっちゃかめっちゃかになってます。

ShimaneCinemaOnozawa (シマネ・シネマ・オノザワ) の館長・和田浩章と申します。

最近ではいろんな音声ガイドの制作をさせていただいておりまして、8 月からは『賭ケグルイ』という Netflix で配信されている音声ガイドの担当をさせていただきました。

和田 9月にはまたいろんな作品が出てくるかと思います。

よろしく願いいたします。

平塚 はいよろしくお願いします。

じゃあですね、今日は音響とか音声ガイドのお話がメインになるんですけども、まず岩浪さんがチュプキの音響設計に関わることになった経緯ですとかね、設備の特徴についてまだご存知ない方もいらっしゃるかもしれないので

岩浪 そうですね。はいまず、特徴から申し上げますと、

シネマチュプキタバタっていうのは20席ほどの20席というマイクロシアター、世界レベルでも一番小さい劇場なんですけど、そこに7.1.4ch…いわゆる、ドルビーアトモスホームというシステムを導入してまして、7.1.4だから12本か12本、小さな小屋の中にスピーカーが配置されてます。

そして、大きな特徴としてはですね、平塚代表から最初にリクエストを受けまして、森の中にいるような、音に包まれるようなものにしていただきたいというリクエストをいただいて、それで考えて、全てのスピーカーサブウーファーって低い音を出すスピーカー以外のスピーカー。7と4のえ〜11本かな、それを全て同じスピーカーにしてるんですね。

これは小さい劇場でしかできない。

大きい劇場ですと、どうしてもスクリーンの裏にあるいわゆるフロントと呼ばれるスピーカーは大きくて、それ以外の壁とかに付いているスピーカーは小さくなるんですけども。小さい劇場だからできたという、全ての同じスピーカーで、音を構築するということによって、尋常じゃないぐらい音の繋がりがっていいんですね。

これあの、僕が普段、作業してるような録音スタジオ映画用の録音スタジオ、贅を尽くした、ま、何億円もかかっているような録音スタジオよりも、その…音の繋がりと意味ではある意味優れている。というのが一番大きな特徴かなと思います。

チュプキのコンセプトとして視覚や聴覚に障害のある方、車椅子の方、どんな方でもユニバーサル。もちろん健常者の皆さんと一緒に楽しめますよっていうコンセプトなんですけど、特にその、視覚障害の方というのは、音が全てであると。

ある意味非常に、僕もその、聞いたときプレッシャーだったんですけども、この小さいスペースで最善の音、音だけを頼りに映画を楽しめる……楽しもうとしている人に、どうやれば最善の音を、提供できるかっていうのをいろいろ考えてシステムを組んで。

ま、非常に、もちろんそういう障害をお持ちの方も、普通の方も、それからチュプキにたくさんいらっしゃるクリエイターの、映画製作者の皆さんからも、とてもいい音だというふうにお褒めをいただいて、6年経ってほっとしてるっていうところですかね。

劇場に関わるきっかけっていうのは、知人を通してこれこれこういう映画館が今起ち上げようとしてると、機材のことがよくわからないんで相談にのってくれないかというお話があって、当時支配人だった和田さんとコンタクトを取りまして。

和田くん言っちゃっていいかな。

07:38 平塚 はははは。

和田 何でもいいですよ。言っちゃって。

岩浪 そのときにね、ぶっちゃけ言いますとですね、和田君騙されそうになってたんですよ。

和田 本当に。

岩浪 いやー、こんな息子はやだな。

和田 な、おーい!...そうかもしれない。ふはは。

岩浪 ですから、今ご覧になってる皆さん、チュプキ行くとね、横の壁に、上の方にね、枝が柵みたいになって置いてあるんですけど、

あれは音を拡散するための、細かいんですけども、音を良くするための道具なんですけれども。

市販もしてるんですけど、もーのすごい高いんですよ。何十万もするんですよ。大したものじゃないのに。だもんで「和田くん、こういうものを買ってきて、こういうものをつけてくれたまえ」つつてね。

和田 はい。

岩浪 もし皆さん劇場行ったらちょっと見てみてください。

11:32 和田 はい、本当に手作りな映画館ですよ。チュプキは。

平塚 伊藤監督は当時、今リバイバル上映中の『オーディナル・スケール』が2018年の3月ぐらいに、当館で上映してたんですけども、そのとき初めてお越しになって、いかがでしたか。最初の印象。

伊藤 枝が和田さん手作りだったというのを初めて聞きましたけどね。

もう手作り感のある、あの箱だなーと思ってね。

平塚 ね、ちっちゃくてびっくりしてなかったですか。

伊藤 ははは。なんででしょう。ここで上映後に舞台挨拶というか喋らせてもらうという話だったんですけど、結構お客さんとほぼ密着しながら見てましたから。ははは。

和田 はははは。

伊藤 本当に、簡単そうだなと思って見てました。

平塚 はい、あのサイズでの舞台挨拶は、本当にお客様かぶりつきで監督と交流ができるので、ありがとうございます。

和田 ぜいたくですよ。

伊藤 ノンアルコールのが申し訳ない感じです。

岩浪 あれだよ。その『オーディナル・スケール』んときは音声ガイドを戸松 遥さんのナレーションで、和田くんの原稿だったんだよね。

和田 そうですそうです。

それ、岩浪音響監督にすぐ泣きついたんですよ、開館して2ヶ月ぐらいで。

「岩浪さん全然お客様入らないんですけど」という話を泣きついていたら、そのときに岩浪さんが「音声ガイドを声優さんにやっていただいたらどうか」というふうなお話をいただいて、そこからもう本当に小野大輔さんだったりとかね、いろんな方が支えてくれたりとか応援してくれてあの中で『オーディナル・スケール』と言う作品で、まさか戸松遥さんという会うことになるとはみたいな。

もう僕レンタルビデオ屋さんで戸松遥さんのCDを縦にこう並べるって、面にするって言うんだけどそれをやってた人間なんで、本物や!!みたいな。

本物が来た!と思いましたね

平塚 いやでも、音声ガイドとしてはすごい革新的なことで。声優さんをナレーターとして起用して、その声優さんのその表現力を活かした、楽しめる音声ガイド岩

岩浪 うん

和田 和田でもそれってやっぱり、岩浪音響監督だったりとか、伊藤監督が、やっぱり聞きどころだったりとか見どころみたいなのところをポイントポイントで作っておられていて、何か音声ガイドでもそういった聞きどころみたいなのところを作ってあげると、お客様が喜ぶんじゃないかなというふうに思ったんですよね。

それは本当に、あの岩浪監督の作品、伊藤監督の『オーディナル・スケール』に触れて、あの触発されて、じゃあもっと面白くしようとか、こういう無茶なことをやろうっていうので、なんかいろんな声色だしてもらったりとか、そのチャットでは何かチャットの声はそれぞれ声を当ててくれたりとか、そのテロップが出るところは、もう何かキヤーキヤー声でお願いしみたいですなことをお願いして。

『オーディナル・スケール』のところはすごい、戸松遥さんのいろんな声色。こんな技も出るんだ、こんな表現もできるんだっていうところに、かなりふれて。すごく、こちらとしても、こんな面白いものはもう本当に健聴者、健常者って言われてるようなその、目が見える人も、あの楽しめたらいいなっていう願いがあったので、すごくそれが叶った瞬間でした。

岩浪 ちなみに今、リバイバル中の『オーディナル・スケール』でも戸松さんの音声ガイドが普通に聞けると

平塚 聞けます聞けます

岩浪 というところでね。チュプキでしか聞けないですよ。

平塚 そうなんですよ、はい。

岩浪 当時、平塚さんにご尽力されてるんですけども、いわゆる聴覚…視覚障害の方に対する音声ガイドっていうのが日本における普及が全く進んでないという現状があって。

欧米いわゆる先進国だと、もうあの義務付けられてたりするんですよ？

平塚 そうですね

岩浪 普通の映画館に行って、あの元々の映画のデータにも入ってるし、そのふつうの映画館行ってこれこれこうでって言ったらそれ用の機材を貸してくれて、音声ガイドを楽しめるとか、あるいは、その字幕入りのもの…字幕が見えるようになるデバイスを貸してくれるとかっていうのが、もうほぼほぼ義務付けられてる。

先進国ではそうなんですけども、日本はなかなかそこが進んでない。

映画、お詳しい方はご存知だと思うんですけども、時々ね、あの字幕上映しますよとか、それも朝の 1 回だけだけどみたいなプログラムをご覧になった方もいらっしゃると思うんですけど、まあ大体そのくらいみたいなのところで。音声ガイドというものがなかなか普及しないというところで、和田くんとかとよく話してたのは、じゃあもうもっとエンタメにしちゃえばいいんじゃないかって、もちろんその健常者の人も楽しんでもらって、障害のある方も一緒に楽しんでもらってっていう、そういう意味で少しでも話題になって、その音声ガイド自体が日本における普及に繋がればいいよねみたいな。

こう、ちっちゃい映画館からそういう波が起こせるといいよね。みたいな話をしながらいろんな声優さんとかにもご協力を願ったって感じだったよね。

和田 そうですね。

平塚 見事に…第1段が小野大輔さんでしたからね。

みごとに、声優ファンの皆さんが聞いてくださって話題にしてくださって。

本当今までは、だから、見えない人のためのツールっていうふうに思い込まれてたから、「音声ガイド体験してみませんか？」という、「私目が見えるからいいです」とか言われることが多かったんですけど、おかげで音をイヤホンを借りる…全員がイヤホン聞いているぐらいな現象はね、チュプキで起きてましたね。

やっぱり聞いてみると見えない人のためのものだけじゃないなっていう。

アニメに限らず映画を楽しむツールとしてこれは面白いっていうのが、やっぱり実際聞いてみて広がって、今本当にはまってね、必ず音声ガイド付きで楽しんでもらう方も多くいらっしゃるぐらいで。

もう本当その、でも革新の音声ガイドを作るのは、和田さん大変だったと思うんですけどね、いろんな風当たりとか。

和田 本当に大変でした。本当に、岩浪音響監督の音ってもすごいダイナミックレンジが広くて、それをどういう言葉で、かってやるかっていうところは本当に悩みましたし、『オーディナル・スケール』本当に映画として本当素晴らしい流れというか、もう共感するばかりなところが多かったんですけど、本当に。

だから制作は大変で、本当に思い出せるのは、その島根に帰省するタイミングが、年末年始あったんですけど。年末年始にそのパソコン持って温泉宿に、あの、ご両親と一緒にいるのに関わらず、俺『オーディナル・スケール』の原稿書いてたってのは未だに覚えていますよ。隠れて夜中やってたっていうことをやっていたっていうのがすごい記憶に残ってますね。

平塚 そうなんだ、ああ。でもあの、決め技とかモンスターの名前をバシン!って出てきたときに言ってくれるだけでも、すごいその、音響とシーンと相まって面白いですよねだから

和田 それはやっぱりガルパンとかも相まって、そういう気概で挑んじゃ駄目なんだっていうのを教えていただいたんですよ、ファンの方々から。

そんな軽い気持ちでつけられないっていうのがあって。誰よりも自分がファンでないといけないうのはすごく毎度…毎回毎回いろんな新しいお話されても自分が一番ファンであるべきだなっていうふうには思って、書いてますね

岩浪 そういう、でも音声ガイドとか。

チュプキさんの特徴として字幕と…日本語の字幕と音声ガイドが必ず付くと。

平塚 はい。

岩浪 今の上映素材っていうのは、それがついてるものと付いてないものがある。まあついてればいいんですけどもついてないものは自前で作ってるわけですよ。

平塚 そうですね。

和田 ははは!クレイジー!

平塚 頭がおかしいとか言われてます。

岩浪 それもまあ、費用はかかるわけですよ?多少は。

平塚 やあでも、なので、もうあれですよ。持ち出してやっていますね。

岩浪 持ち出しですよ。

平塚 はい。

岩浪 どう考えてもね。

チュプキがね経営していけるっていうのがね。

おかしいですよ。

平塚 あはははは！

和田

岩浪 いやただでさえ映画不況で、ミニシアターとか独立系の映画館ってどんどんどん潰れて。

ね、つい最近も北九州の方で火事になっちゃってとか、ちょっといたたまれない話もありましたけれども。まあ映画館に人がなかなか行けない。ましてから最近ですとコロナの影響もあり、というところで、たかだかキャパ 20 で、入場料が 1500 円

平塚 はい。一般 1500 円。

岩浪 これご覧なってる皆さんの 1500 円が全部映画館の収入になるわけじゃないんで、ね。

大体その歩合って言って 50%はそちらにみたいところとか、ね。

1 本、月に何万円で掛けていいよとか。

でもねどう転んでも、ちょっと計算すればわかるんですけど 1500 円のうち半分ね、チュプキに入る。

それで月にせいぜい何百人ですわお客さん。どうやって経営が成り立ってんだっていうのはね、それで字幕もつけて、その音声ガイドも付けて。

平塚 いやでもそうい、お手伝いいただいてるスタッフさんたちが、ほぼボランティアでやってくださってるから、何とかかなりたってるっていう…

岩浪 ですよ。劇場で働いてらっしゃるアルバイトっていうか、ボランティア的な人にはちゃんとギャラ払ってんすか。

平塚 あの劇場の運営スタッフは、アルバイトも社員もちゃんと、あの、十分ではないかもしれないですけど、ちゃんと払っております。

岩浪 でもね、ちょっと計算すればわかるんですけど、そんな、仮に月 500 人入ったとして×750 円。

ねもう、めっちゃ明朗会計なんですけど、これでどうやって映画館運営してるんですか。

僕ねぶっちゃけ言うと、お手伝いしてたときに、もしかしたら 1 年後か 3 年後かにはもうグブアップするんじゃないかって内心想ってた節もあるんですよ。

どう転んでも映画館として、経営は成り立たんだろうこれって、うん、正直思っていました。当時は。

平塚 あの単純に本当、チケット収入だけでは、成り立たないですね。

だから今、サポーター会員になっていただいている方のご寄付とか。そういったものに助けていただいたり。あとたまに外注で、音声ガイドや字幕の制作依頼っていうのがあるので、そういったもので制作費を出していただくこともあり。

あとは、ユニバーサル上映をやっぱりこう、広げていきたいっていうことで、ご協力もいろんな上映会でやっていく中で、ちょっと協力謝礼みたいなものいただいたり、私が講演に行ったり、お話すると謝礼いただいたりとか、そういうことで、なんとかどうにかこうにかっていう…

岩浪 そういう、いろいろ何か細々いただいて、みんなチュプキに突っ込んでるでしょ。

平塚 あ、はい。全部。

岩浪 もうね、ちょっとね、和田くんもそうだけど平塚さんもね、あの何て言うんすか。人が良すぎるっつか…

平塚 岩浪さん…

岩浪 いやだからそういう人のね、頼みは断れないですって。マジで。

平塚 あははは。まあでもね。という感じですので、お客さんにやっぱり劇場にいっぱい足を運んでいただいて。うんその…チケット収入でやっていけないとはいえ、極力やっていけるようにもしていただきたいところですね。

岩浪 そのチュプキで映画見ていただくっていうことが、今後の音声ガイドの普及であったり、いろんなことに間接的に繋がっていくっていう部分も…

平塚 はい、そうなんですよね。この日本で唯一のユニバーサルシアターなんで。あの、ここが失敗してしまうと、後に続かないので、そういったあの、先駆者モデルとしての使命みたいなものも背負って、やっておりますから、でもこのサイズで映画館やってみたいという方増えてるんですよ。

見学にいらっしゃる方とかも多いんですけど…。このサイズでもできるよっていうことだったり、ユニバーサルシアターを皆さんでもやってくださいっていうことが、何か…なんだろう、できることだということで、あの、伝わっていったらいいと思うので、うん。ちょっと頑張らないといけませんね。

和田 頑張りすぎだよ。

全員 ふははははは。

和田 算術おかしいよ。

26:37 平塚 はいはい。

岩浪 で、今回はその「DCP」

平塚 あ、はい。そうなんです。

岩浪 いわゆる、デジタルシネマパッケージという。

映画館の今、通常行われている上映形態が、今まだチュプキにはないんですよ。

平塚 そうなんです、ないので、今、ぶっちゃけソードアートオンラインは、市販版の Blu-ray で上映しております。

岩浪 そう…DCP。そういう Blu-ray で上映できるものはいいいけれどもその Blu-ray がないような、作品とかも増えてきてるんですよ。

平塚 そうですね、これは映画業界全体の問題だと思うんですけど。

もうやっぱり皆さん生き残りをかけて、コスト削減できるところは極力しようということで。もうやっぱり、あのデジタルシネマパッケージっていう、その…サーバー上にデータをファイルパッケージを置いておくっていうことでセキュリティ保護もできるし、

ディスクに落としたりその他の媒体に落とすっていうところのスタジオ経費も削減できるし。

それでいて高画質高音質っていうことで、ほとんどもう Blu-ray 作らない、っていう、配給会社さん増えてきてるんですよ

岩浪 編成…この映画かけたい、編成したい。あるいはお客さんからこの映画見たいっていう声があっても、かけられないっていう事象が今増えてきてるっていうことですよ。

平塚 増えてきてます。

だって岩浪さんの「アイの歌声を聴かせて」もそれできないんですよ、今。

岩浪 そっか。Blu-ray 最近でしたから。ふふふ。

皆 ははは。

平塚 そうなんです。Blu-ray が出るまで待ってくださいとかいうパターンもあるんですけど、あの作品に関してはそれも無理なんです。

岩浪 うん。

平塚 ので、本当に DCP を導入して DCP 素材で上映できるようにならないと、本当かけられない作品は結構増えてきてますね。

岩浪 今後もうそうなんですよ。だから、掛ければお客さん来てくれるだろうっていう作品も、かけられないとか。

平塚 そうですねリクエストをいただいたりとか、本当に話題になっていて、これがかけられたら、たくさんお客さん来てくれるんだろうなというのが、できずにあります。

岩浪 うん。それにいくらかかるんでしたっけ？

平塚 それに、本体 500 万、ぐらいするものなので、いろいろ設置とかも含めると 600 万近く。

岩浪 ね、先ほど言ったような経営状態のチュプキにそんなお金があるわけもなく。

皆 ふふふふふふ。

岩浪 皆様のお力をおかりするしかないんですが。

平塚 そうですね。

岩浪 今、クラウドファンディングはどのぐらい達成されてるんですか？

平塚 今クラウドファンディングですね。さっき見たところ…

岩浪 600 万を目標に…

平塚 はい。475 万ぐらいさっき見たところ行ってたんですが。

岩浪 ああ。もう一息ですね。

平塚 そうですね。

まあでも本当にあのもう 409 人もコレクターの方いらっやって、474 万達成しております。

岩浪 あと、126 万。

平塚 はい。

岩浪 何とかひとつ。

平塚 あと 19 日で。

岩浪 はい。8 月 31 日までに。もし達成されないとまた平塚さんがいろんな仕事を、二徹、三徹してしなきゃいけないっちゃうんで。

平塚 ははははは。

和田

伊藤

ぜひね、今日配信見てらっしゃる方、ちょっとお金なかなかそんなにないよっていう方「こういう話があるんだけど」っていうのをちょっとお金持ちそうな人に話してくれると…

全員 ふははははは。

平塚 そうですね。

まあでも、ちょっとあんまりね。困ってます助けてくださいと言い続けるのもなんなので。あの…この映画館のちょっと魅力を、もっと知ってもらって、「行きたい!」と思って来ていただけるようにというお話もしたいんですけども。

岩浪 どうぞ。

平塚 まずね、このやっぱり映画を…やっぱり目で見て楽しむものと思われてた映画を、視覚障害者の方の存在というのがあったらこそ、こうやって音響とか音声ガイドで楽しむという新しい楽しみ方が、まずできるというのが売りだと思うんです。うちの映画館。

なのでちょっとこの音響デザインもちょっと深掘したいんですけども。

よろしいでしょうか。

伊藤さん。ちょっとずっとおとなしく…いいですか？

31:34 伊藤 ちなみに今、DCP 導入するときって、なんかまた変えるんですか？システムって。

岩浪 いや、あの…オーディオの出口は変えないですけども、そこに至るまではかなり変わりますし。やっぱりそのプロユースの機械で…厳密に言うとそのサンプリングレートとか難しい話になっちゃうんですけど、そういうのもあの、品位の高い規格になるんで、元々の素材の音質とかは画質も含めて上がりますね。

平塚 うんうん。

伊藤 やっぱり技術ってのはいいってことですね。

平塚 そうなんです。他でも同じような、あの小さなミニシアター…最近 DCP 導入された方に聞いたら、あの「画質が良くなるのはわかっていたけど、音質もこんなに良くなるんだってびっくりするぐらい変わった」って聞いて。

岩浪 やっぱりプロユースの機械ですし、機械の中の回路とかも壊れないように。それからハイスペックなものになってきます。

デジタルの機械なんで、日進月歩でどんどん良くなってきてるんですね。

今度あのチュプキさんに入れようとしているサーバーであるとかシネマプロセッサっていうのは最新の機種なんで。僕なんか、いろんな劇場調整しに行ったりするんですけど、やっぱり 10 年前 15 年前のシネマプロセッサとかあるんですよ。

それと最近出たものだと全然音質違うんで。逆に言うとかかなり最先端なハイスペックな、あの音にはなります。

なかなかその比較して聞かないとわからないんです。同じソースを比較して聞かないとわからないんですけども、まあ何て言うかな、1 枚幕が取れたみたいな、クリアさにはなりますね。はい。

平塚 あとお客様から「Atmos でできる作品増えるんですかね？」っていう声を…

和田 おっ!頭を下げました!

岩浪 えっとね。それは…ちょっと難しい問題があります。

平塚 あ、そうなんです。日本の映画業界の問題ですか?

岩浪 いや、システムのところで。今チュプキに入ってるのはアトモスホームというもので、いわゆる業務用の…メディアアトモスとは、ちょっとシステムが違うんですよね。

平塚 はいはい。

岩浪 それをやろうとすると、あと数百万…

和田 あはははは!

平塚 ストレッチゴールが必要ですか?

岩浪 いや、それはちょっとあまりおすすめしないかな。

平塚 あ、そうなんです。

岩浪 まあちょっと、ちょっと考えますけど…

和田 でもまた、今後もまた進化できるっていう部分での、伸びしろがあるっていうふうに捉えてもね、いいんじゃないかなと思いますよね

岩浪 そうですね。音声ガイドの運用とか、あるいはいろんな照明とかのオートメーションとかも含めて、えーと、いろいろ使い勝手は良くなるはずなんで。うん。今非常にその、すべてをマニュアルで操作してるんで、ね。

平塚 そうですね。

岩浪 従業員の方も大変なんですけれども。

うん、あのそういうのも少しシステムチックになって、なおかつ画質音質も向上しますね。

和田 おお～。

平塚 楽しみです。

岩浪 何よりかけられる映画が多くなると。

平塚 そうですね。そして、岩浪監督も、調整に、頻繁に訪れるようになる。

岩浪 え?ええ～。

全員 ははははは。

和田 そこは…そこは勉強していかないと。

平塚 すいません、ちょっと調子に乗りました。

和田 そこはちょっとね勉強しながら「どうですか岩浪さんこんなふうに勉強してやってみました」ってやしないと駄目だよ。

平塚 そうですね。

岩浪 ぶっちゃけ言いますとね、僕ね今、チュプキ以外から今お金もらってるんですよ。

平塚 そうなんです。うちだけなんです。

和田 そうなんだ

平塚 スコッチウイスキーをいつも…

岩浪 ありがとうございます。美味しくいただいております。

平塚 すいません、こんな…ではね、もうお時間も結構…こんなお話をしたらお時間もたっちゃってるんですけど。

和田 大丈夫ですか?伊藤監督の話も少し…

岩浪 そうだね。

伊藤 ふふふふふふ。

和田 伊藤監督、もったいないっすよ。

平塚 じゃあぜひちょっと、伊藤監督の『オーディナル・スケール』今ちょうど上映してるので、なんかこう、ここはすごいよっていう推しのシーンとか。

伊藤 何でしょう、伊藤『オーディナル・スケール』に限らずですけど。岩浪さんのやったやつは、うるさいけどうるさくないっていうのは、こういうことあるんだなと思っているんです。

平塚 うんうん。

伊藤 ここ 1 年割と僕、映画館で見るようにしてるんですけど、なんかこう、セリフ聞こえねとか、セリフ書いてるけど、そんなに活かされてないなっていうのが結構あって。まあこの差は一体何なのかっていうと、何を聞かせようかっていうのと、ここでこう、次のやつを聞かせるためにちょっとこう…沈めておくとか、その工夫の差が如実にでてるなっていうのを結構感じます。

和田 うん。

伊藤 バトルものってやっぱこう、使う音が多いので、セリフとSE(注:サウンドエフェクト、効果音)と音楽があるわけですけど、これを聞きたいなと思うのをちゃんと聞けてくれるっていうのはとてもいいという風なバランスで聞けるようになってるんじゃないかと思うんで。

なおかつそれをやっぱ聞ける環境は、映画館が一番いいと思うので、なるべくそのかけられる見られる時があったら、良い環境で見ていただけると、何でしょう、作った側としてはとてもありがたいなというふうに、思いますけどね。

なかなか、何でしょう、家庭環境であのうるさい音を使おうと思ってボリュームを上げると、ちょっとね、隣の家から「うるさいぞ!」って言う可能性もね、ありますから

和田 うん。でも伊藤監督もいろんな劇場に岩浪監督と一緒に行かれて、なんかこう、音に対する考え方とか、何か変わっていったところってあったりします。

あれって、最初から 5.1ch、7.1ch とかあったんでしたっけ。

岩浪 あれは 5.1

岩浪 5.1 で。それだね、『HELLO WORLD』っていう作品っていうね、また音がパワーアップした作品を出したりとかしてましたもんね。

それってやっぱなんか、いろんな劇場に行って、岩浪音響監督の作品を触れてみたらもっと面白いなっていうふうに思われたんですか？

伊藤 そうですね。実際やってるのもありますし、全く関係ない作品見ると、なんか、何でしょう、他の人とやってることの違いがまあ、わかるわけですね

和田 ああそうですね。うん、本当に違いますよね。

で落ちたりすることです。

伊藤 何だろ、自分で入れられるときはこうしようかなとかも思うわけで、テレビだとこう、できないこともいっぱいあるんだなっていうのも、もちろん思いますし。

あと映画をやらないと体験できないので、思いますね。なかなか全ての人にこれでこうなんですよっつってもわかってもらえないことがいっぱいあるんですけど。

和田 ふふふふ。なるほどなあ。やっぱそうですね、2ch…あのテレビで見たりとか、配信で観るのがね、デフォルトかしていますけれどもね。やっぱり映画館の音響っていうのやっぱりすごく特殊に作られていますからね。

平塚 全然違いますよね。私ついさっきフルダイブしてきたんですけど…

和田 フルダイブしてきた!?

平塚 オーディナルスケールをもう1回。あの、階層に応じてモンスターが強くなっていくじゃないですか。音も、音もちゃんと強くなっていった。

もう100層目の、やつとかすごいですよね!

和田 すごい!

平塚 で、私今日1個気づいたんですけど。あのね、空腹で見ると、また体感の振動がね。すごいんだってことが…

和田 え?どういうこと?

平塚 体を空洞にしていってますよ。

和田 そうすると?

なんかこうね、みぞおち辺りにズーンっていうのが、より一層くるような気がしました

岩浪 あの一、チュプキっていうのやっぱ狭いんで。

普通の大きな映画館だと間接音…直接音と間接音ってあるんですけど、どうしても間接音の比率が多くなるんですね。

狭いが故に直接音がじかにくる、体にくるっていうのと。あと細かいんですけどサブウーファっていう重低音を出す機械がですね、これまたちっちゃな映画館に似つかわしくない、ものすごくいいやつ使ってるんですよ。

平塚 うんうんうん。

だからその、鋭角的に重低音が体に刺さるっていうか、それがタイムラグがないんですよ。それも大きな劇場よりも優れているところで、大きな劇場どうしてもタイムラグがあるんです。

そういう意味ではまさしく、その、狭いがゆえのフルダイブ感みたいなのはチュプキじゃないと体験できない音になってると思います。特にまた『オーディナル・スケール』ですとユナっていう歌姫が出てきますが、その歌という存在も非常に物語のキーになってきますけれども

平塚 はいはい。

岩浪 その再生される音も、ものすごく綺麗に出ていますんで。

平塚 そうですねすごい透明感があって。あのだから、すごいアクションシーンの強さと、その差のすごさ。綺麗などこは本当に綺麗に聞こえるので。

岩浪 そうですね、うん。ですからチュプキですってまだ見てないって方は『オーディナル・スケール』伊藤監督の、まだ今月いっぱいやってるんで、ぜひご覧になって。

あのチュプキに行くというだけでね、いろんなものを支援することになるんで、ぜひご協力していただきたいというところと。

できましたら、普通に1回見て、もう1回は音声ガイドをお聞きになって。

平塚 はい。

岩浪 ひと作品で二度美味しいと。

平塚 そうですね

岩浪 より作品の理解も深まると思うんでね、ぜひご覧になってください。他にもね、あの素敵な作品をたくさんやってますんで。ぜひご利用したことがないという方、チュプキの方に足を運んでいただき、お金持ちの知り合いにクラウドファンディングをしていただき、ご支援を。

和田 ふふふ

岩浪 よろしくをお願いします。

平塚 はい。よろしくをお願いします。

あの、チャットもね結構たくさんいただいてるみたいで、ちょっと拾えなくて申し訳なかったんですが、いくつかだけご紹介しますね。

「『オーディナル・スケール』がチュプキでの出会いでした。今日も見てきました!」っていう方。

岩浪 ありがとうございます。

平塚 はい、いらっしゃいますね。

あと「ガルパンの中上育実さんの音声ガイドも良かったです」っていう声も上がってます。

和田 すごいんだよ中上さんも。

平塚 はい。そうね、皆さん劇場の家賃の心配をしてくれている。

全員 あはははは!

和田 それはそう。

岩浪 うーん。

平塚 結構高いんだよね、あそこね。

和田 高いねえ。

岩浪 ま、2階も借りてますからね。

平塚 そうなんですよ。まあ、ね、3階も今空いてるんで、あの…ふふふ。

和田 おーい、おいおいおい。

全員 あはははは。

和田 怖い怖い怖い怖い。何なにになに?なんの信頼、それは。

平塚 あの、チュプキをボランティアでお手伝いしたい映画ファンのかたはぜひ。

岩浪 ふふっ!

和田 3階に?ふふふ!

岩浪 三階に住め?ふふふ

和田 怖いことを笑いながら言ってますね。

平塚 とんでもないこと言ってますね。

和田 ああ、そうだよ。

平塚 はい。問題になっちゃうからね、またね。

和田 そうですよ。

44:20 平塚 はいじゃあもうね、お時間も…もうもうお時間なっちゃうんですね。

じゃあ最後に皆さん一言ずつ、よろしくお願い致します。はい。

岩浪 僕からですか?

平塚 はい、どうしましょう。岩浪さんトリがいいかな？

岩浪 いやもう大体僕喋っちゃったんで。

平塚 じゃあ、逆からいきましようか。和田さんからいきましようか？

岩浪 和田くんからいく？

和田 そうですね。

音声ガイドを作らせていただいて、改めて、映画映像文化の理解、分解、再構築っていうことをさせていただいて。何ていうんだろうな、単にそれが情報保障っていう部分で、この先いろんな映画に音声ガイドがついてくれたら、それはそれですごくいいことなんですけども。やっぱり日本の映画文化っていうのはなかなか、あのお金がないところも多いのに、そういったものを求められてしまうっていうところが出てきてしまいます。

なので僕としては、やっぱり作品として、音声ガイドを一つ作ることによって、新たな鑑賞体験になって映画配給会社さんも、そういったお客様が増えていって、ファンになっていただけるような、そういった努力を毎度やっております。ぜひこの機会に『オーディナル・スケール』『プログレッシブ』見ていただけたらなと、思っております。

どうぞよろしく願います。ありがとうございました。

45:51 平塚 ありがとうございました。じゃあ伊藤さん、よろしくお願いします。

伊藤 うーん。何を言おうか、そんなないんですけど、ぜひ DCP 導入されたら、次はプログレッシブの監督のね、河野さんにバトンタッチして、ははは。そちらでねまた音声ガイド導入してもらい、新たな舞台挨拶とかやってもらうのがいいんじゃないでしょうか。

和田 おおー。すごい〜。夢がある。

伊藤 本当に仲良くないですけど、ちょっとだけ行きますんでね。全然。

なんてバトンタッチしても繋いでいければと思います。

DCP で観たいです。すいません願います

46:31 平塚 はいよろしくお願いします。ありがとうございます。

じゃあ最後に岩浪さん。

岩浪 そうですね。あの DCP 入ったらね、伊藤さんの『HELLO WORLD』とかもかけたいよね。ね？

伊藤 そうですね。すぐは無理ですけど

平塚 チャットでねハロワみたいですっていうのをいただけてます。

岩浪 いや、映える(ばえる)と思いますよ。

和田 いい作品ですからね、本当に。

岩浪 うん。あとは僕の方ではそうですね。もう来月 9 月 10 日かな。プログレッシブのソードアート・オンライン・プログレッシブの新作が、公開されますんでそれも劇場でぜひと。ゆくゆくはチュプキさんでかかったら、その時もぜひと。

和田 おお〜。

岩浪 ということと。なんだろうな。

なんかちょっと思い出しちゃったんですけど、6 年前、チュプキ作ってるときにさ、まだ何百万足りないってときにさ、なんかあんまりこれ言っちゃいけないのかな。

「いくら入りました！」みたいなさ。

何かリアルあしながおじさんみたいな人が訪れてさ。訪れてっていうか、ね、現れて。何か、当時の目標を達成して…。何かその前さ、「どうしようか？どこを削る？」みたいなさ。

和田 ふふふふ、はい。

岩浪 うん、なんか、結構暗澹たる話をしてたんだよね。その 2 階でさ。

和田 はい、しました。

岩浪 何か…そしたら「うん百万入りました！」みたいな。

和田 うん

岩浪 ね、なんかそういう方が現れて。なんかね、「すげえことが起きるんだな」っていうのを今ちよっとふと思い出したんですけども。

別にそういう人が今現れてくれて言ってるわけじゃないですよ。

平塚 でもね、今回もですよ。あのちょっと半分冗談で、あの…

一番高額の、あの、支援額 50 万、ていうのは、「DCP に名前を刻める」っていうリターンでおいてたんですけど。

二人、いらっしゃるんですよ、もう。

岩浪 フウ～！

和田 あははは！DCP に名前を刻めるで！

岩浪 誰も見れないじゃんね。

全員 はははは

和田 ねえ。誰にも見えないとこなんで。

平塚 チュプキスタッフが永久に感謝し続けるっていうリターンがつくんですけど。

岩浪 いやあ、ありがたいですね。

和田 神棚みたいなね。

平塚 そうですね、あの、残り枠 3 人ですの。

和田 おーおーおー！

岩浪 それちょっといやらしい？

全員 あはははは！

和田 それ言っちゃうのが平塚さんなんだよな。

平塚 すいません。そんなね、ご支援いただいています。

伊藤 150 万。はっはっは。これで達成できますよ！

和田 うん本当ですね。これで達成できますよね。

平塚 でもそんなこと言ってる間にですよ。あの…先ほど 475 万ぐらいだったのが、もう 480 万になってますよ。

岩浪 ありがとうございます。

平塚 ありがとうございます。ふふふ。

和田 ありがとうございます。すごい。

平塚 うふふ。ありがとうございます。すごい。

はい、皆さんのね…本当にもう 1000 円からで結構です。ね、今の冗談です。50 万 3 人っていうのはね。

岩浪 でもね、そのお金じゃなくてもね、劇場に足を運んでいただくとか、SNS等で拡散していただけたらとか。そういうのもね、あの力になりますんでね。

平塚 そうなんです。

実は今ね、『ソードアート・オンライン』10周年ということで、その…DCPがないのでうちは新作のプログレッシブ『冥き夕闇のスケルツォ』というのは、すぐには上映できないと思うんですけど、それを待つ間にですね、『星なき夜のアリア』は16日まで『オーディナル・スケール』は31日まで上映をしておりますが。（注:30日までです。）

もうちょっと盛り上がるかなと思ってたら、ちょっと今、あの、寂しい状況になってますので。

岩浪 いかん！

平塚 ぜひ…ぜひこのYouTube聞いた方はね、見ましょうか。

伊藤 じゃあ、行きましょうか？応援しに行きますよ！ははは。

平塚 あ、ありがとうございます。

和田 おお～。

平塚 このフルダイブフォレストサウンドを体感しに。そして、ね、伊藤監督も来てくださるということで。はははは。

伊藤 サイン会でもしましょうか。

和田 はははは。また無茶をさせてー。すいませんありがとうございます

平塚 ありがとうございます。

岩浪 まあでもね、先ほども言いました、ここでしか聞けない戸松さんの…アスナの音声ガイドを聞くだけでも、行った甲斐があると思うんでね、足を運んでいただきたいですね。

平塚 はい。ぜひお越しく下さい。

ということで、もう時間が5分以上過ぎてしまいました。

今日は、本当に皆さん、どうもありがとうございました。

岩浪 はい、ありがとうございます。

和田 ありがとうございました。

平塚 はいクラファンも31日までですのでぜひ応援よろしくお願いします。

岩浪 頼みますよ！

和田 よろしく願い致します。

平塚 ありがとうございました！

岩浪 ありがとうございました。

和田 ありがとうございました。

平塚 それでは、失礼いたします。

岩浪 失礼します。

平塚 さよなら～。

51:45 （終了）最後までご視聴いただき、ありがとうございました。シネマ・チュプキ・タバタ